



平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年7月31日

上場会社名 富士急行株式会社
 コード番号 9010 URL <http://www.fujikyuu.co.jp/>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)堀内 光一郎
 問合せ先責任者 (役職名)取締役執行役員IR推進室長兼経営管理部長 (氏名)和田 一成 TEL 0555-22-7120
 四半期報告書提出予定日 平成25年8月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	10,868	5.3	716	100.5	535	206.7	313	122.2
25年3月期第1四半期	10,318	18.4	357	—	174	—	141	—

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 300百万円(—%) 25年3月期第1四半期 △6百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	2.95	—
25年3月期第1四半期	1.33	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第1四半期	90,302	17,550	18.7
25年3月期	89,881	17,784	19.1

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 16,897百万円 25年3月期 17,139百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	—	—	5.00	5.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	25,040	4.1	3,170	5.3	2,670	3.4	1,430	2.4	13.47
通期	47,200	5.6	3,800	10.8	2,800	9.3	1,350	4.7	12.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 ー社 (社名) 、除外 ー社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

26年3月期1Q	109,769,477株	25年3月期	109,769,477株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

26年3月期1Q	3,579,966株	25年3月期	3,578,965株
----------	------------	--------	------------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

26年3月期1Q	106,189,946株	25年3月期1Q	106,118,885株
----------	--------------	----------	--------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期におけるわが国経済は、円高の是正や株価の上昇などによる景気回復への期待感の高まりや、円安を受けて外国人観光客が増加するなど明るい兆しが見え始めました。

また、6月には、富士山の世界遺産登録が決定し、富士山への注目度が更に高まることとなりました。

このような状況のなか、当社グループは、運輸、不動産、レジャー・サービス、その他の各事業にわたり、積極的な営業活動と経営の効率化に努めてまいりました。特に、「2013富士芝桜まつり」は、運輸部門への波及効果も含め収益増に大きく貢献いたしました。

この結果、当第1四半期の営業収益は108億68百万円（前年同期比5.3%増）、営業利益は7億16百万円（同3億58百万円増益）、四半期純利益は3億13百万円（同1億72百万円増益）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(運輸業)

鉄道事業では、富士急行線で3月のダイヤ改正から大月～河口湖間の運転本数を増やすと共に、フジサン特急の運転時刻を見直し、利便性の確保に努めました。また、JR東日本と連携を強化し、富士本栖湖リゾートの「富士芝桜まつり」にあわせたJR中央線からの直通列車の増発による利便性の確保のほか、列車無線の運用を開始し安全性向上に努めました。

河口湖畔の天上山公園カチカチ山ロープウェイでは、円安効果の影響で前年を上回る外国人観光客にご利用いただきました。また、昨年開業した展望台売店「たぬき茶屋」での物販、飲食を充実させ施設の魅力向上に努めました。

乗合バス事業では引き続き不採算路線の改善を行うとともに、5月に港区のコミュニティバス「ちいばす」の麻布ルートを「麻布東ルート」・「麻布西ルート」に分割し、速達性や定時性の確保等、利便性の向上に努めました。

高速バス事業では4月に松本～河口湖・富士急ハイランド線を新規に運行開始いたしました。また、本栖湖の「富士芝桜まつり」の開催に合わせ、新宿からの直行高速バスを運行し、好評を博しました。

貸切バス事業では、水陸両用バス「YAMANAKAKO NO KABA」が引き続き好調で、需要にお応えするため、4月に2号車を導入いたしました。また、6月には平成23年4月の運行開始以降、ご搭乗者数累計10万人を突破いたしました。

6月に富士山の世界遺産登録が正式決定となり、鉄道、バスで連携し、富士五湖エリアへの集客や到着後の周遊コースの設定などを順次計画してまいります。

以上の結果、ハイヤー・タクシーなどの各事業を含めた運輸業全体では、営業収益は38億34百万円（前年同期比2.5%増）となり、営業利益は2億42百万円（同53.4%増）となりました。

(不動産業)

不動産販売事業では、引き続き山中湖畔別荘地において大人の趣味・嗜好を追求できる「コンセプト・ヴィラ」シリーズの販売や、富士山世界遺産登録を契機として富士山を眺望する物件として「山中湖の森シリーズ」のうち、新商品「ぬくもりの森」を販売促進するとともに、訴求効果の高いWebサイトをリニューアルするなど、積極的な販売活動を展開しました。また、山中湖畔別荘地において、開催の度に好評を得ている別荘オーナー向けのクラシックコンサートでは、著名音楽家を招くなど、CS向上に努めました。

不動産賃貸事業につきましては、施設の改修などを行い、安定的な収益の確保に努めました。

以上の結果、不動産業全体の営業収益は6億74百万円（前年同期比5.8%減）、営業利益は1億93百万円（同8.2%増）となりました。

(レジャー・サービス業)

遊園地事業では、富士急ハイランドにおいては、各種イベントを実施すると共に、鉄道・バス等の交通パックを戦略的に展開した結果、収益は前年を上回りました。

また、富士南麓の遊園地「Grinpa」では、「チューリップ」と「富士山」をコラボレーションしたイベントを展開する等集客に努めました。

「さがみ湖リゾート プレジャーフォレスト」においては、話題性のある団体イベントの誘致や3月の「さがみ湖温泉 うるり」の開業が奏功し、更にエリアの魅力が増し、新客層の獲得ができました。

ホテル事業では、ハイランドリゾート ホテル&スパにおいては、富士北麓で富士山が最も美しく映えるレストラン「フジヤマテラス」が季節毎の地場メニューで好評を博し、宴会部門では婚礼受注が順調に推移しました。ホテルマウント富士では、春先については欧米等からの桜花見ツアー、新緑時には関西からの富士山ツアー等で、遠方から数多くのお客様にご利用いただきました。

富士本栖湖リゾートにおいては、「2013富士芝桜まつり」について、抜本的な土壌改良や地域特性を踏まえた花苗植え替え等万全の体制をとり、4月13日から6月2日まで開催し、この間多くの話題を集めることができ、過去最高の約43万人のお客様にご来場いただきました。

以上の結果、ゴルフ場事業等を含めたレジャー・サービス業全体の営業収益は55億89百万円（前年同期比9.7%増）となり、営業利益は3億円（同3億円増益）となりました。

(その他の事業)

製造販売業においては、株式会社レゾナント・システムズが国土交通省認定ドライブレコーダーや音声合成放送装置などの交通機器の販売が順調に推移したものの、富士ミネラルウォーター株式会社において、非常用保存水の需要が伸び悩んだこと等により、その他の事業全体の営業収益は、16億80百万円（前年同期比8.5%減）、営業利益は4百万円の赤字となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、現金及び預金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べて4億21百万円増加し、903億2百万円となりました。

負債は、借入金の増加などにより、前連結会計年度末に比べて6億55百万円増加し、727億52百万円となりました。なお、借入金は長短合計で15億60百万円増加しております。

純資産合計は、利益剰余金の減少などにより、前連結会計年度末に比べて2億34百万円減少し、175億50百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、平成25年5月8日に公表した業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,059,027	12,510,683
受取手形及び売掛金	2,790,089	1,759,498
分譲土地建物	8,347,379	8,349,349
商品及び製品	540,466	555,309
仕掛品	18,953	379
原材料及び貯蔵品	583,802	665,521
未成工事支出金	173,255	134,046
繰延税金資産	186,226	128,454
その他	938,627	876,912
貸倒引当金	△14,210	△11,594
流動資産合計	24,623,617	24,968,559
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	27,753,205	27,641,303
機械装置及び運搬具(純額)	5,205,041	4,873,513
土地	16,243,423	16,327,319
リース資産(純額)	3,852,859	3,761,384
建設仮勘定	798,741	1,328,839
その他(純額)	1,444,350	1,369,214
有形固定資産合計	55,297,622	55,301,575
無形固定資産		
投資その他の資産	3,085,196	3,103,972
投資有価証券	5,028,721	5,009,625
繰延税金資産	449,468	464,323
その他	1,421,347	1,478,767
貸倒引当金	△24,432	△24,182
投資その他の資産合計	6,875,104	6,928,534
固定資産合計	65,257,923	65,334,081
資産合計	89,881,540	90,302,641

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,089,375	1,940,500
短期借入金	23,205,399	23,303,563
リース債務	888,298	906,409
未払法人税等	810,331	112,124
賞与引当金	412,665	132,240
役員賞与引当金	6,500	—
その他	4,110,599	4,292,494
流動負債合計	31,523,169	30,687,332
固定負債		
長期借入金	31,657,198	33,119,282
リース債務	3,210,510	3,119,177
退職給付引当金	999,926	985,312
その他	4,706,298	4,841,190
固定負債合計	40,573,933	42,064,961
負債合計	72,097,103	72,752,293
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,126,343	9,126,343
資本剰余金	3,415,942	3,415,942
利益剰余金	5,679,080	5,462,865
自己株式	△1,491,517	△1,492,501
株主資本合計	16,729,848	16,512,649
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	410,021	384,403
その他の包括利益累計額合計	410,021	384,403
少数株主持分	644,567	653,294
純資産合計	17,784,437	17,550,347
負債純資産合計	89,881,540	90,302,641

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
営業収益	10,318,229	10,868,767
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	9,697,434	9,891,571
販売費及び一般管理費	263,538	261,039
営業費合計	9,960,972	10,152,610
営業利益	357,256	716,157
営業外収益		
受取利息及び配当金	24,108	24,610
持分法による投資利益	21,002	21,489
雑収入	65,165	40,757
営業外収益合計	110,276	86,857
営業外費用		
支払利息	272,706	248,140
雑支出	20,064	18,887
営業外費用合計	292,770	267,028
経常利益	174,762	535,986
特別利益		
固定資産売却益	1,146	—
補助金	22,482	1,110
受取補償金	83,774	—
特別利益合計	107,403	1,110
特別損失		
固定資産圧縮損	22,440	1,110
固定資産除却損	57,085	37,527
特別損失合計	79,525	38,637
税金等調整前四半期純利益	202,640	498,458
法人税、住民税及び事業税	58,108	111,651
法人税等調整額	△10,012	60,842
法人税等合計	48,096	172,493
少数株主損益調整前四半期純利益	154,543	325,964
少数株主利益	13,489	12,539
四半期純利益	141,054	313,425

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	154,543	325,964
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△154,097	△24,342
持分法適用会社に対する持分相当額	△6,987	△1,502
その他の包括利益合計	△161,085	△25,845
四半期包括利益	△6,541	300,118
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△19,061	287,806
少数株主に係る四半期包括利益	12,520	12,312

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計				
営業収益								
外部顧客に 対する営業収益	3,722,568	590,684	4,959,727	9,272,980	1,045,248	10,318,229	—	10,318,229
セグメント間の 内部営業収益 又は振替高	20,075	125,040	133,260	278,376	792,459	1,070,835	△1,070,835	—
計	3,742,644	715,725	5,092,987	9,551,357	1,837,707	11,389,065	△1,070,835	10,318,229
セグメント利益	157,933	178,568	617	337,118	33,387	370,506	△13,249	357,256

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、百貨店業、建設業、製造販売業、情報処理サービス業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△13,249千円には、セグメント間取引消去△13,142千円等が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計				
営業収益								
外部顧客に 対する営業収益	3,815,054	551,112	5,446,146	9,812,313	1,056,454	10,868,767	—	10,868,767
セグメント間の 内部営業収益 又は振替高	19,439	123,032	143,181	285,653	624,155	909,808	△909,808	—
計	3,834,493	674,145	5,589,327	10,097,966	1,680,610	11,778,576	△909,808	10,868,767
セグメント利益	242,254	193,238	300,784	736,277	△4,475	731,802	△15,644	716,157

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、百貨店業、建設業、製造販売業、情報処理サービス業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△15,644千円には、セグメント間取引消去△12,891千円等が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。